

川崎陸送

個人情報の保護体制確立でプライバシーマークを取得 既存荷主の通販物流需要にも対応、ビジネスチャンス拡大へ



川崎陸送で個人情報保護体制を確立
個人向け商品の発送業務を受託
クリタックから宅配飲料水の保管、発送業務を受託

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)は3月28日付で、プライバシーマーク(Pマーク)を取得した。

現在、同社が手掛けている個人向け商品の発送業務で個人情報の保護体制を確立するのが狙い。今後、増えることも予想される既存荷主の通販物流需要にも対応し、ビジネスチャンスを広げたい考えだ。

2010年

11月に、清水営業所(静岡市清水区)で栗田工業の子会社クリタックから宅配飲料水「水のクリタックのうまい水」の保管、発送業務を受託。クリタックの出荷データに基づき、宅配会社を利用して商品を個人宅に発送するもので、送り状の発行等を通じて個人情報に触れる機会が増えた。

葛西流通センター(東京都江戸川区)でも通販など個人向け商品の取り扱いがあり、また、既存の荷主でもネット通販などの販売形態が増えてくると予想されることから、個人情報保護

の体制を整備している事業者を認定するPマークの取得に挑戦。昨年6月にPマーク取得準備室を立ち上げた。



人事総務部長の空閑氏
Pマーク認定証を手

人事総務部長の空閑氏は「規定の整備と従業員への周知に苦労した。取得後の取り組みの継続が重要で、2年後の更新に向けて定着を図っていく」と話す。川崎陸送の情報システム事業会社であるエル・スリー・ソリューションでも情報セキュリティマネジメントシステム(IMS)の取得を目指しており、グループとして情報セキュリティ体制の構築も目指す。

個人向けの商品を扱う清水営業所、葛西流通センター、従業員情報を統括管理する人事総務部、財務部の4カ所を「重点管理部門」とし、パソコンにワイヤードockを採用。従業員情報のファイルは施錠を強化。事業所の入退場記録についても規定に沿って行うこととした。

なお、規定の整備にあたっては「業務に支障が出ないこと」と「書かれている内容が」非現実的でないことを重視。受付には仕切り壁等は設けず、来訪者記録も勤務スペースと公共スペースで扱いを分けた。ドライバー名のトラックへの表示や社内報等での従業員名の記載などは「業務上必要なもの」として同意書により確認をとっている。

空閑氏は「規定の整備と従業員への周知に苦労した。取得後の取り組みの継続が重要で、2年後の更新に向けて定着を図っていく」と話す。川崎陸送の情報システム事業会社であるエル・スリー・ソリューションでも情報セキュリティマネジメントシステム(IMS)の取得を目指しており、グループとして情報セキュリティ体制の構築も目指す。

物流関連の映像制作(会社案内・リクルートなど)は当社まで

carigo@carigo-news.co.jp